

年 組 名前：

問1

小学5、6年生、中学1年生は、公立中の部活動の地域移行について、約7割の児童・生徒は、何を希望していますか。

.....
.....

問2

「従来型コンテンツ」と「新たなコンテンツ」について説明してください。

・従来型コンテンツ

.....
.....
.....
.....

・新たなコンテンツ

.....
.....

問3

「楽しみ志向」の部活動には、どのような部活動がありますか。2つ答えてください。

.....

問4

あなたは、どのような部活動をしてみたいですか。

.....



同日、県防災新館で行われた第1回県地域クラブ活動推進連絡会で、県教委担当者が示した。アンケートは児童生徒のスポーツや文化芸術活動に

地域移行

「楽しみながら」7割

児童生徒調査 競技力向上3割

公立中の部活動の地域移行について、小学5、6年生、中学1年生の約7割が、楽しみながらできる活動を希望していることが24日、県教委が昨年度実施したアンケート調査で分かった。競技力の向上は約3割が希望した。県は友達と楽しみながらできる活動として市町村が主体となって実施する「従来型コンテンツ」と、高い技術の習得を目的にスポーツ団体が運営主体となる「新たなコンテンツ」の二つの方向性で、地域移行への検討を進めるとしている。

〈小池直輝〉

対するニーズを把握しようと、3月に実施。県内公立小5、6年生の児童と公立中1年生の生徒計1万5315人を対象に行った。

「部活動に限らずやってみたいスポーツとその活動内容志向は」との問いに、「体験制を準備することが必要」と型キャンプ」「レクリエーション」など「楽しみ志向」を示した児童生徒は67・2%、「競技力志向」を示した児童

生徒は32・8%だった。競技力志向を示した児童生徒のうち、60・3%が「全国・県レベルの活動」を希望した。連絡会では今後の方向性なども説明された。県は「多様な求めに応えるための活動体制を準備することが必要」と判断。友達と楽しみながらできる活動、多様なスポーツが体験できる活動を念頭に、市町村が主体となる「従来型コ

ンテンツ」、全県の中学生が参加でき、競技力向上や高い技術の習得を目的とする活動、マウンテンバイクやスケートボードなど市町村で実施主体の確保が困難な活動を念頭に置いたスポーツ団体が運営主体となる「新たなコンテンツ」の二つの方向性で準備を進める考えを示した。

「従来型コンテンツ」は地域の実情に応じた活動とし、学校単位や市町村単位の活動をイメージ。「新たなコンテンツ」はサッカーなど希望者が多く指導者も多い競技は各市町村で活動、バドミントンなど希望者は多いが指導者が少ない競技、トライアスロンなど希望者が少なく指導者も少ない競技は県内1カ所での活動をイメージしていることを説明した。

連絡会は大学教授や小中学校、高校、スポーツ関係団体の代表者ら20人が委員を務める。

(2023年7月25日付 山梨日日新聞 18面)